

Japanese  
Where Has Thy Strength Gone, Samson?  
59-0702

# サムソンよ、あなたの力はどこに行ったの か？

ロサンゼルス カリフォルニア州 アメリカ合衆国  
1959年07月02日



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

# サムソンよ、あなたの力はどこに行ったのか？

1 [ある兄弟が、ブラナム兄弟のために聖書を朗読する。]

「士師記第16章、4節から22節までです。少し長い聖句ですので、朗読している間、皆さんお座りになって結構です。ブラナム兄弟から、この箇所を読むように頼まれました。」

その後、サムソンはソレクの谷にいる一人の女を愛した。その名をデリラといった。

するとペリシテ人の領主たちが彼女のところに上って来て、彼女に言った。「彼を惑わして、彼の大いなる力がどこにあるのか、また、どのようにすればわれわれが彼に勝ち、彼を縛って苦しめることができるのかを探り出してくれ。そうすれば、われわれはそれぞれ銀千百枚ずつをおまえに与えよう。」

デリラはサムソンに言った。「お願いです。あなたの大いなる力がどこにあるのか、また、何で縛ればあなたを苦しめることができるのか、私に教えてください。」

サムソンは彼女に言った。「まだ乾いていない七本の新しい弓弦で私を縛るなら、私は弱くなり、ほかの人と同じようになる。」

そこでペリシテ人の領主たちは、まだ乾いていない七本の新しい弓弦を彼女のところへ持って来た。彼女はそれで彼を縛った。

そのとき、彼女の部屋には待ち伏せしている者たちがいた。彼女が彼に言った。「サムソン、ペリシテ人があなたに襲いかかっています。」すると彼は、その弓弦を、火に触れた麻糸が切れるように断ち切った。こうして彼の力の秘密は知られなかった。

デリラはサムソンに言った。「まあ、あなたは私をあざむき、嘘をつきました。今度こそ、何で縛ればよいのか、どうか私に教えてください。」

彼は彼女に言った。「まだ一度も使われたことのない新しい綱で私をしっかり縛るなら、私は弱くなり、ほかの人と同じようになる。」

そこでデリラは新しい綱を取り、それで彼を縛り、彼に言った。「サムソン、ペリシテ人があなたに襲いかかっています。」そのときも部屋には待ち伏せしている者たちがいた。しかし彼は、その綱を腕から糸のように断ち切った。

デリラはサムソンに言った。「今まであなたは私をあざむき、嘘をついてきました。何で縛ればよいのか、私に教えてください。」彼は彼女に言った。「私の頭の七つの髪の毛の房を機の縦糸と織り合わせるならよい。」

彼女はそれをピンで留めて、彼に言った。「サムソン、ペリシテ人があなたに襲いかかっています。」すると彼は眠りから覚め、織機のピンも機の縦糸も引き抜いて行ってしまった。

彼女は彼に言った。「どうして『おまえを愛している』などと言えるのですか。あなたの心は私と共にありませんか。あなたはこの三度、私をあざむき、あなたの偉大な力がどこにあるのかを教えてくださいませんでした。」

そして彼女が日ごとに言葉をもって彼に迫り、彼を責め立てたので、彼の魂は死ぬほど悩まされた。

ついに彼は心のすべてを彼女に打ち明けて言った。「私の頭には、かみそりが当てられたことがない。私は母の胎にいた時から、神にささげられたナジル人だからだ。もし髪をそられれば、私の力は私から去り、私は弱くなって、ほかの人と同じようになる。」

デリラは、彼が心のすべてを打ち明けたのを見ると、人を遣わしてペリシテ人の領主たちを呼び寄せ、「今度こそ上って来てください。彼は私に心のすべてを打ち明けました」と言った。そこでペリシテ人の領主たちは、銀を手にして彼女のところに上って来た。

彼女はサムソンを自分の膝の上で眠らせた。そして人を呼び、彼の頭の七つの髪の毛の房をそらせた。すると彼女は彼を苦しめ始め、彼の力は彼から去った。

彼女は言った。「サムソン、ペリシテ人があなたに襲いかかっています。」彼は眠りから覚めて、「いつものように出て行って、身を振りほどこう」と言った。しかし彼は、主が自分から去られたことを知らなかった。

するとペリシテ人は彼を捕らえ、両目をえぐり出し、ガザへ連れて下り、青銅の足かせで彼を縛った。彼は牢獄の中で白をひいていた。

しかし、そられた後、彼の頭の髪は再び伸び始めた。

[その兄弟が人々にブラナム兄弟を紹介する。]

「ブラナム兄弟。」

神よ、どうかこれからの夜、この集会在聖霊によって動かされますように。主よ、ここに在るすべての人が、自分の身に何かが起こるまでは、この大会を去ることがありませんように。

この二、三夜の説教の中で植えられた種が、神からのしるしと不思議と奇跡によって、また聖霊の新たなバプテスマによって水を注がれますように。そして男も女も、新しいいのちのうちに立ち上がりますように。

古びて停滞していた人々が、新しい望みを受け取り、キリストにあつて前進し、その働きを成し遂げることができますように。そうして主が再び来られることができますように。

主よ、それをお与えください。

イエスの御名によってお願いいたします。

アーメン。

2 今夜ここに在られることを、本当にうれしく思います。そして、このような恵み深いクリスチャンの皆さんの前で話して、すばらしい機会をいただいたことを感謝します。皆さん、お一人お一人にご挨拶申し上げます。ここに在るからのこの数日間は、私の人生の中でも、最も栄光に満ちた日々の幾つかでした。

そして今朝、私が自分の犯した過ちについて告白をしていた時、牧師たちが次々と、また実業家たちが次々と、涙を流しながら、向こうで私に会いに来て、共に祈り抜くために出て行きました。私はそういうことが好きです。それは、告白がある限り、リバイバルへの望みがあるということを示しているからです。そうではありませんか。ですから、私たちはそのことを喜んでいます。

さて、昨晩は、私たちの尊いロバーツ兄弟が、クリスチャン実業家たちにまっすぐ向けてメッセージを語られました。ですから今夜は、私が語るわずかな言葉を、教会に向けたいと思いました。というのも、この集会には、後援して下さっている牧師先生方が大勢おられるからです。ですので、私はこれを教会に向けて語りたいたと思いました。

今夜の私の主題は、

「サムソンよ、あなたの力はどこへ行ったのか」

です。

3 少しの間、頭を垂れて祈りましょう。

愛する天の父よ、私たちは心を尽くし、力を尽くし、自分の内にあるすべてをもってあなたのもとに参ります。そして、あなたの御恵みを求めます。もし私たちが何か、あなたに喜ばれないことを行ったり、言ったり、あるいは思ったりしたなら、主よ、どうかそれらのことをお赦しください。

まことに私たちは、いつの日か、あなたの愛する御子、主イエスの義に包まれて、あなたの御前に立ち、あなたの御国へ迎え入れられる備えをしたいのです。

そして今、私たちが正しい思いを持っているこの時に、すべての罪の赦しを求めます。私たちの人生には、突然呼び出され、悔い改める時間もない時が来るかもしれません。今夜、主よ、御言葉が私たちに読まれましたので、どうか聖霊がその御言葉を取り、私たちが必要としているところに応じて、私たちの心に分け与えてくださいますように。

また主よ、この大会を引き続き祝福して下さるよう祈ります。そして、これまで語られたことのゆえに、あなたに感謝したいのです。十字架の尊く勇敢な兵士たちが、証しと説教の中で、心からの真実を語ってくださいました。これまでなされたすべてのことを感謝し、あなたがなお続けて働いてくださるようお願いいたします。

シャカリアン兄弟を祝福してください。また、すべてのクリスチャン実業家たち、すべての牧師たち、そしてここに共に集められているすべての団体を祝福してください。そしてこの大会が、西海岸で開かれた大会の中でも、最も偉大なものの一つとなりますように。

主よ、どうかこの一日、二日のうちに、ここで何かが起こり、カリフォルニア州全体を目覚めさせ、人々を悔い改めへと導き、私たちの主イエス・キリストの救いの恵みを知るに至らせてください。

今夜、聖霊が私たちに仕えてくださるのをさらに待ち望むこの時、私たちに共に祝福してください。

あなたの御子、イエスの御名によってお願い致します。

アーメン。

4 このサムソンという人物は、私にとって、旧約聖書の中でもいつも特に際立った人物でした。私が初めて説教しようと試みた説教を、今でも覚えています。それは、「サムソン、勇敢なる力ある人」という題でした。なぜなら、私は力というものが好きだからです。そしてサムソンには力がありました。主の力があつたのです。

私は、彼が非常に大きな先史時代の巨人のような人物だったとは信じられません。もしそのような男が町の門を取って丘の上まで運んだり、素手で獅子を殺したりしたのを見ても、そこには神の栄光はないでしょう。

しかし私は、サムソンは、私たちが言うなら、ほんの小柄な、取るに足りないような、小さな男だったと思うのです。そして主の霊が彼の上に臨んだ時、そこに神が栄光をお受けになったのです。人々は、彼自身の力では到底そんなことはできないと分かっていました。ですから、それは主の力でなければならなかったのです。

神は、ご自身の偉大なわざを行うために、単純なものをお用いになります。本当にありふれたものをお用いになるのです。時に私たちは、神が用いようとし

私たちのキリストについての知的な理解が、死んで腐るほどになるまでは、新しいいのちは生まれません。新しいいのちは、死がある時にだけ来ることができのです。死といのちは、互いに結びついています。

そして父よ、私たちは悟ります。地に入る黄色い新しい穀粒は、硬く、無感覚で、無関心です。しかしそれが死に、腐る時、小さな緑の芽が出て来ます。それは、地に入っていたものとはまったく違います。しかし出て来る時、それは柔らかく、しなやかです。風が吹けば揺れ、柔らかいのです。それは新しいいのちです。色も違います。

同じように、十字架の下に倒れ、自分自身の知的な考えに対して腐りきる、硬くなった教会員もそうです。しかし、その状態から新しいいのちが出て来る時、その人は出て来た時にはまったく違っています。その人は生きています。成長しています。御言葉に対して、また御霊に対して、しなやかです。

御霊が風のようにその人の上に吹く時、その人は御霊に合わせて動き、揺れます。かつては硬く、こわばったまま横たわっていたのにです。

36 神よ、今夜、手を挙げたすべての人に、聖霊が新しいいのちを創造してくださいますように。

そして主よ、私たち皆が自分自身に死んでいく間に、私たちはペンテコステであると告白しています。どうかペンテコステの経験が、私たちの上に突き抜けて現れますように。

私たち自身の考えが死に絶え、聖霊が私たちの存在を支配してくださいますように。そして神が私たちに望んでおられる者へと、私たちに造り変えてください。

主よ、私たちの内に願いを創造してください。熱心を、主よ、伝道する熱心を、説教する熱心を、証しする熱心を、何かを行い、昼も夜も進み続ける熱心を与えてください。思っているよりも時は遅いからです。

まもなくイエスは来られます。そして、もし主が来られないとしても、私たちの人生はまもなく終わります。その時、永遠の中で、私たちはなぜもっと多くのことをしなかったのかと不思議に思うでしょう。

なぜ、満たされて座り込み、出て行って、怠けて横になっていたその時間を、もっと用いなかったのか。なぜ外へ出て、それをもって何かをしなかったのか、と。

34 ああ……。今、頭を垂れている間、あなたが何を求めているのかを、心に留め続けてください。

こう言いなさい。

「神よ、私を連れ戻してください。どんな代価がかかっても構いません。それが何であっても構いません。私はもう、世と戯れたくありません。私は本物でありたいのです。」

もし教会が、本来そうあるべきように神と共に歩み続けていたなら、私たちの周りに、足の不自由な人や苦しんでいる人々がいることもなかったでしょう。

私たちは罪を告白しなければなりません。私たちは……。

「私たちの罪ですって？」あなたは言うかもしれません。

「まあ、私は何も悪いことはしていません。私は酒も飲みませんし……」

そういうことではないのです。時には、それは怠りなのです。神と共に前進していないことです。聖霊のうちに行動していないことです。神があなたに与えてくださったものに、水を注いでいないことです。あなたはそれを悲しませて、遠ざけてしまっているのです。

昨晚、一人の女性が私のところに来て、こう言いました。

「ブラナム兄弟、私は本当に病んでいます。もう祈りの力がありません。私の中から、祈りのいのちがなくなっていました。そして私は年を取ってきています。このまま行きたくないのです。」

分かりますか。御霊を悲しませて、あなたから遠ざけてしまったのです。

今この時、主をあなたのところへ来させなさい。

35 主イエスよ、この人々の群れをあなたのもとへお連れします。主よ、御言葉は時に厳しく、両刃の剣のように、行きにも帰りにも切り込みます。しかし主よ、私たちを今の私たちにするのは、まさにそのようなものなのです。

割礼を施し、この世の肉をすべて切り取って、新しいいのちを与えてくださるのは、聖霊です。それは、この誕生の中にあるのです、主よ。地に横たえられた種のようなのです。その種が死に、腐るまでは……。そしてそれが腐る時、そこから新しいいのちが出て来ます。

ておられる本物のものを、すぐ目の前にしながら通り過ぎてしまいます。何か大きなものを見つけようとしているからです。

5 そして先ほども言いましたように、サムソンとデリラは、教会に非常によく似ています。今夜、私はそのように彼らをなぞらえてみたいのです。

サムソンは、主に従っている限り、偉大な人でした。そして彼が神の戒めを守り、神と共に歩んでいる限り、神は彼をお用いになりました。神は教会にも同じようになさいました。教会が神と共に歩み、神の戒めを守っている限り、神はその教会を用いることができになります。

しかし、サムソンがそうしたように、教会が脇道へそれてしまうなら、神はもはやその教会をお用いになることができません。神は働くために、ほかのものを見いださなければならなくなるのです。なぜなら神は、教会であれ、組織であれ、個人であれ、その者が神の戒めのうちに忠実に歩んでいる限りにおいてしか、お用いになることができないからです。

サムソンは本当によくやりました。彼は良い出発をしました。そして、よそ見をし始めるまでは、うまくいっていたのです。しかし彼が戯れ始めた時、彼は問題に陥りました。それが、彼の後退の第一歩でした。

そして今夜、私は信じています。それは教会にとっても、後退の第一歩なのです。すなわち、未信者と戯れ始める時です。このペリシテ人の女は、信者ではありませんでした。サムソンは、彼女の美しさに引きつけられました。

そして私は、教会も同じことを随分してきたと思うのです。教会は世と戯れ始め、世に倣おうとし、その姿に引きつけられてきました。

6 サムソンは悪い仲間の中に入り込んでしまいました。そして、これだけはいつも覚えておくことができます。悪い仲間の中にいる時、あなたは主の御心の外にいるのです。

私の南部育ちの母は、よく私にこう言っていました。

「ノミのいる犬と一緒に寝れば、起きる時にはノミをもらっているよ。」

少し粗い表現ではありますが、日常の常識としては大いに意味のある言葉です。

世のものと交わりながら、なお主の前に霊的で謙遜なままでいられるなどということは、できないのです。人は、その交わる相手によって知られます。昔か

らこういう言葉があります。

「あなたの仲間を見せてみなさい。そうすれば、あなたがどんな人か言ってあげよう。」

そして教会が世と交わり始める時、それはもはや世と何も変わらなくなってしまう。サムソンがしたように戯れ始める時、教会は聖霊の交わりから外れ、神との交わりから外れ、御使いたちとの交わりから外れ、神の相続の民との交わりからも外れてしまうのです。

7 そして、教会がその戯れを始めたのは、世のものに倣おうとし始めた時でした。世が提供できる成功を見て、それに合わせようとしたのです。

しかし私たちは、世と足並みをそろえようとするように、神から定められたことは一度もありません。私たちは、世ほど華やかで、輝かしく、才気に満ちた者であったことはありません。

聖書にも書かれていると思いますが、この世の国の子らは、御国の子らよりも抜け目がなく、賢いのです。彼らのほうが巧みなのです。それはカインとアベルの時代からずっとそうでした。

8 さて、私たちは聖霊との交わりという、昔からの歩みから離れ始めました。戯れ始めたのです。

私たちがまず始めたことの一つは、神が初代の時代に教会を用い始められた時、彼らが最初にしたことでした。それは、教会を組織化することでした。それがカトリック教会と呼ばれるものです。それが最初の組織でした。

私は、組織そのものに反対しているわけではありません。もしその組織が、自分たちの境界線を広げて、次の組織とも交わるのであれば、それはよいのです。しかし、その交わりを自分たちの境界の中だけに閉じ込め、交わりを持たないのであれば、それは間違っています。

しかし教会は、世に倣(なら)おうとし始めました。そして悪魔は、カトリック教会を組織化した時、教会を縛り上げたと思ったかもしれません。

ところが、

「サムソン、ペリシテ人があなたに襲いかかっています」

という挑戦が来た時、マルチン・ルターが立ち上がり、あらゆる縄を断ち切

をなさるでしょう。

しかし、必ず力の揺り動かしがあるのです。聖霊の隠された力が、もう一度伸びてくるのです。それは何にもまして確かなことであり、終わりの日にその働きを成し遂げるでしょう。

神が、それが現れる時、私たちすべてをその髪の毛の中に数えてくださいますように。

祈りましょう。

33 祈る前に、皆さんが頭を垂れている間に、私はあなたがたに一つ質問したいと思います。

あなたがたを愛する兄弟としてです。私はこれらのことを、ただあなたがたをなでて慰めるために言っているではありません。あなたがたが神の前に正しい状態にあることを確かにするために言っているのです。

かつて持っていた経験を、もう一度持ちたいと願う方はどれほどおられますか。聖霊のうちに新しくされることを願ひ、

「ブラナム兄弟、今、私のために祈ってください。神が私の力を新しくしてくださるように」

と言いたい方は。

神があなたを祝福してくださいますように。見てください。至るところで手が上がっています。

「神よ、私の力を新しくしてください。」

ああ、なんとすばらしいことでしょう。

「私をカルバリへ連れ戻してください。この世のすべてのものを捨てさせてください。すべてを捨てて、あなたにすがりつかせてください。」

「すべてを捨て、自分の十字架を日々負わない者は……」

それは犠牲の歩みです。世に倣(なら)って歩む歩みではありません。キリストがあなたの模範です。日々死んで、イエスに従って歩むのです。

ああ、私の尊い友よ、主がそれをあなたに与えてくださいますように。

としても、教会は自由なままでいさせなさい。御霊のうちに自由である限り、そのままにしておきなさい。

教会には、神学校も、墓場のようなものも、またそれに伴うどんなものも必要ありません。教会に必要なのは、聖霊のバプテスマと刷新です。

ダビデは言いました。

「私の救いを新しくしてください。私の救いの喜びを回復してください。」

教会はそれを失いつつあります。それは本当に残念なことです。しかし、それでも彼らはそうしているのです。

そして神の力は、もはや教会を揺り動かさなくなりました。それは彼らにとって、ただ当たり前のものになってしまいました。彼らは出て行って、

「まあ、なかなか良かったね。うん。」

と言って、そのまま去って行くのです。

ああ、それは私たちを悔い改めのために膝まずかせるべきものです。それは涙をもたらすべきものです。それは救いと魂を勝ち取る働きをもたらすべきものです。

主の来臨は、私たちをそれほどまでに強く迫り立てるべきです。私たちがあらゆる街角に立って、誰かに語ろうとするほどにです。

何かをしなさい。

しばらくすれば、それをするには遅すぎる時が来るのです。

32 私たちには一つの望みがあります。私はこれを言って閉じようとしています。私たちにある一つの望みです。

彼らがサムソンを縛っていた間に、新しい髪の手が伸びてきました。

私は神に祈っています。神がここから、どこかから、新しい髪の手を伸ばしてくださいますように。それが、ペリシテ人たちを、かつてないほど揺り動かすものとなりますように。

私は、神がそれを持たれると信じています。もし神が教会を通してそれをなさないなら、クリスチャン実業家をお取りになるでしょう。神は何か別のこと

って出て来て、義化を宣べ伝えたのです。ふむ。

そして悪魔は、それが教会の隠された力ではなかったことを見たのです。

9 さて、デリラの目的は、彼の力を見つけ出すことでした。そして、その力を見つけたところで、彼を破滅させることができたのです。

それこそ、悪魔が教会に対してしようとしていることです。すなわち、その力の秘密を見つけ出そうとしているのです。しかし、神がマルティン・ルターを起こされた時、カトリックの縄は断ち切られました。

それから彼女は、再び彼を縛りました。世は、ルター派教会の中で彼を縛ったのです。しかし、

「ペリシテ人があなたに襲いかかっています」

という叫びが来た時、ジョン・ウェスレーが立ち上がりました。聖化、すなわち恵みの第二の働きです。そしてそれが、その縄を断ち切ったのです。

そして彼らは、またそれを縛りました。するとまた別のメッセージが来ました。

「ペリシテ人があなたに襲いかかっています。」

その時、ペンテコステ派の群れが立ち上がりました。それが、教派の壁や、その他もろもろの縛りの糸を断ち切ったのです。

しかし今、私たちは、それらがほとんど縛られてしまっているのを見ています。残念なことですが、それが真実です。そして今、ペンテコステ教会の中に、かつて世が他の人々を縛るために用いた、まさにそのものが入り込み、ペンテコステ教会を縛っているのを見ています。まったくその通りです。

10 私たちがまず最初にしようとしたことは、ほかの人々がしているような大きな見せ物を作ろうとすることでした。私たちの説教者たち、牧師たち、羊飼いたちを取り上げて、神学博士に仕立て上げようとしたのです。

私たちに必要なのは、神学博士ではありません。私たちに必要なのは、聖霊のバプテスマです……。私たちのただ中に、そうしたものは必要ありません。しかし、まさにそこにおいて、それは教会を縛ろうとするのです。

そして次に彼らがしようとするのは、教会の謙遜さ、そのへりくだりから離

れさせることです。そして、より立派な服装をした集団や、より教育を受けた集団を教会の中に入れようとしています。また、私たちの奉仕者たちを取り上げ、どこかの神学校へ送り出して、多くの教育を学ばせようとするのです。

あなたがそうする時、あなたは教会から奪い取り、聖霊の力を縛ってしまうのです。

それはまさに真実です。

11 さて、彼らは実際にそのようなことをしているのです。これを皆さんに言わせてください。

ある人が言います。

「私たちの牧師は以前は……本当に神のために燃えている、昔ながらの説教者でした……」

しかし今日では、神に召された人ではなく、神学校に呼ばれるままにしてしまうのです。彼らは、お金のため、生活の糧のため、あるいは何者かになりたいがために、その道に入っていきます。

私たちの主とは、なんと違っていることでしょうか。主が地上に来られた時、主は私たちすべての模範でした。そして主は、仕える主でした。最も低い仕事を引き受けられたのです。足を洗う下僕のような立場を取り、しもべとなりました。それでも主は天の神であられたのに、しもべとなられ、最も低い者の中の低い者となられたのです。

今日では、神がある人を少し祝福し、よい教会を与えられると、その人は、自分が仕えられる者になるまでは満足できなくなってしまう。それは霊的な病のしるしです。イエスが仕えられたのは、弱っている者たちだけでした。

ラビ、博士、牧師先生などと呼ばれたいと願う者たち。ああ、そうした自己中心的で、不敬虔で、悪魔的な名前……。私たちは兄弟です。そして私たちはこの世の者ではありません。

しかし、人々が求めているのはそれなのです。彼らが集会か何かにやって来る時、胸を張って歩いて入り、あれこれと振る舞い、そしてあなたは那些人たちに最高の敬意を払わなければならないようにされるのです。

私たちには、互いからのそのような敬意は必要ありません。もし私が敬意を求めるなら、それは真の敬意をお与えになる神から来るものであってほしいの

した。聖霊から離れてしまったのです。

30 鳴き声を上げる雄鶏たち、カナリアの頭しか持たない、教育を受けたカナリアたちが、神のあらゆる細かな仕組みをあなたがたに説明しようとしています。

しかし、そのようにして神を知ることはできません。神を知るのは、新しく生まれる時です。それが、あなたが神を知ることのできる唯一の道なのです。

神は今もなお神であります。かつてそうであられたのと同じように、今日も神であります。神は、エリヤと共に山におられた神です。ダニエルと共に獅子の穴におられた神です。神はまさに……。神はペンテコステの神です。教会の中におられる神なのです。

ですから今夜、私たちがしなければならないことは、私たちの階級意識や、飾り立てたものから離れて、神に立ち返ることです。

聖霊に立ち返ることです。

昨晚ここで持たれたような、徹夜の祈禱会に立ち返ることです。

31 これは心に刺さる言葉だと分かっています。厳しい言葉です。私もこういうことをしたいわけではありません。あなたがた……あなたがたペンテコステの人々のお金が、私の子どもたちを養ってくれています。ペンテコステの人々のお金が、異教の地で福音を宣べ伝えるために、私を世界中へ運んでくれています。

私はあなたがたを愛しています。だからこそ、私はあなたがたを叱り、このように語るのです。私は世が入り込んで来るのを見ています。私は熱心なのです。もし私の妻がほかの男と戯れているのを見たなら、あなたがたは、私がすぐに彼女のところへ行くのを見るでしょう。それは当然のことです。なぜなら、私は彼女を愛しているからです。

そして、教会が世と戯れ始めるのを見る時、私の内に何かが湧き上がるのです。私はじっと座っていることができません。何かを言わなければならないのです。私のことを何と呼んでも構いません。私はただ、それを吐き出さずにはられないのです。

私は教会に対してねたむほどの思いを持っています。私は、教会が世に絡み取られることを望みません。教会が世に絡み取られることなど、神が禁じてくださいますように。たとえ粗末な裏通りのような場所で礼拝しなければならない

私たちに必要なのは、よく洗われた清い教会です。本当にきっぱりと清く、百パーセント神のために立ち、徹底して神の側に立ち、恥じることも、後ろへ退くこともない教会です。

世が何と言おうと、私たちは気にしません。私たちには神がおられます。そして私たちが気にかけるのは、その方だけです。その方は私たちの心の内におられ、私たちは御霊とまことによってその方を礼拝するのです。

それこそ、神がご自身の教会に求めておられるものです。

29 デリラは、あれを見せ、これを見せ、また別のものを見せながら、ついにサムソンが彼女に引っかかるまで、ずいぶん苦労しました。

そして教会も、世のものに引っかかってしまったのです。そうしているうちに、気がつけば、教会の中では神の癒しがほとんど尽きてしまったような状態になっています。

私は集会へ行きます。そして主が私に与えてくださった小さな賜物、すなわち主の復活の証しと、御霊の識別によって……。そうしたことが起こります。すると私は、ペンテコステの人々が座って、

「ああ、まあ、それでいいんじゃないか……」

と言うのを見たことがあります。

聖霊の力がそのように動いている時に、新しく生まれたクリスチャンが、世のものによってそこまで死んだようになり、ただそんなふう座っているなどということが、想像できるでしょうか。

罪人たちが、神の前に正しくされるために祭壇へ向かい始めます。するとクリスチャンたちは、座ったままガムを噛み、彼らを眺めているのです。これは本当です。

昔はそうではありませんでした。私が出て来たバプテスト教会、あのケンタッキーの昔ながらのバプテストの教会では……。まあ、一人の罪深い若者が祭壇へ向かい始めると、そこにいた母親たちは皆、その首にすがりつくようにして祈ったものです。彼は祭壇に着く前に、もう突き抜けて出て来たものでした。

何が問題なのでしょう。

彼らは秘密をそり落としてしまったのです。祈りの生活から離れてしまいま

です。

あなたがたは互いから誉れを求めているのに、どうして信仰を持つことができるのでしょうか。

それは、収穫物から最も良い部分を取り去ってしまうようなものです。教会の隠された力を奪っているのです。それを人々から吸い取ってしまっているのです。

私たちは、世のように振る舞おうとしているのです。

12 さて、私はこうしたものに対して、何か反対しているわけではありません。しかし、私たちが気づいたのは、たばこ会社や紙巻きたばこ、それからコカ・コーラや他の会社、ビール会社などがテレビ番組を取り上げると、彼らは一気に広がっていったということです。

すると私たちも、すぐにそれをつかみ取ろうとしました。さて、それについて私は何も反対しているわけではありません。しかし、私たちは世と競争するためにここにいるわけではありません。私たちは福音を宣べ伝えるためにここにいるのです。

神について、ホットントットがエジプトの騎士について知っている程度にも知らないような、知的な人々の集まりを座らせておいたところで、いったい何の益があるのでしょうか。

私たちに必要なのは、神の御霊によって新しく生まれ、神を自分の救い主として知り、聖霊に道を譲ることを知っている人なのです。

13 今日、教会全体は、非常に危機的な状態にあります。

神の召しはその人の人生の上にある牧師たちを取り上げ、どこかへ送り出してしまおうのです。いわば、どこかの「防腐処置をする場所」のような所へ送り、そこで何かの防腐液のようなものをいっぱい注ぎ込まれてしまうのです。

その結果、御言葉を宣べ伝え、人々を聖書と聖霊への信仰へ導く代わりに、信条や心理学の寄せ集めを教えるようになります。そして、それを人々に教えるのです。その結果、人々を最初の状態よりも、さらに神から遠ざけてしまします。

まさにそれが、私たちの教育プログラムがもたらしたもののなのです……。

神は教育によって知られるお方ではありません。科学によって知られるお方でもありません。また、世のどんなものによっても知られるお方ではありません。

神はただ、信仰によって知られるのです。あなたが神を信じることによってです。

14 エデンの園には知識の木がありました。そして人は、完全にその知識の木にしがみついていたのです。

覚えておいてください。あなたが知識の木の根元に生き、その木から落ちてくる実を食べている限り、あなたは命の木から離れているのです。二つのところに同時にいることはできません。

あなたがたは知的な巨人を作り出します。それは確かです。そして偉大な哲学者たちを作り出します。しかし、私たちにはそのような哲学者は必要ありません。教会に必要なのは、へりくだった、新しく生まれたクリスチャンなのです。

それを見ていると、各教派が自分たちの奉仕者たちを、もう少し高い立場へ教育しようとしていることを思い起こします。教会の中に、もう少し知的な集団を入れようとしているのです。

今ではペンテコステの人々までもが、何百万ドルもするような立派な建物を建てています。そして同時に、「主はすぐに来られる」と説教しているのです。しかし、私にはそれが筋の通ったことには思えません。分かりますか。

けれども彼らはそれをします。世がそれをしているからです。ほかの人々がそれをしているからです。しかし、私たちは、ほかの人々が何をしているかなど気にしません。神の御前に正しく生きること、それが一番大切なことなのです。

15 しかし、エデンの園で、悪魔は人の頭を選びました。神は人の心を選ばれました。

そして今、悪魔は知的な人々の中に入り込み、自分の宗教を知的なものへと持って行ったのです。あなたは、知性によって神を知ることは決してできません。あなたは新生によって、すなわち心から来る新しく生まれることによって、神を知らなければならないのです。

人生の高ぶり、肉の欲、目に見えるもの……。しかし神が入って来られる時、神は人の心の中に入られます。そして、その人の目には見えないものを、信

です。

そしてこの終わりの日のペンテコステ教会における聖霊についても、同じことが起こっています。髪の毛をそり落とし始めているのです。

その秘密を見つけること。場所を見つけること。祈禱会を止めることです。

私はあるペンテコステ教会を知っています。ここに来てから、その教会に属している人と話したばかりですが、そのペンテコステ教会では、水曜の夜に、あるテレビ番組を見るために十五分早く集会を終えるのです。そして皆、地下室へ降りて行って、そのテレビ番組を見るのです。

28 先日、ある牧師が私に話してくれました。彼がある人の家へ夕食をいただきに行った時のことです。夕食の準備をしている間、その牧師の妻は、「We Love Susie」とか何とかいう番組を見に行かなければならなかったのです。彼らのために夕食を作る前に、まずそれを見なければならなかったのです。

兄弟、私はあなたに言います。そのようなことが起こる時、それは家庭生活の状態を示しているのです。少年非行があるのも不思議ではありません。秘密が見つけれられてしまったのも不思議ではありません。

それは人々から聖霊のバプテスマを取り去ってしまいました。そして彼らは、神に立ち返る代わりに、世のものを追い求めているのです。

立ち止まりなさい。見なさい。聞きなさい。主の来臨は近いのです。

私たちの知識が、何の役に立つのでしょうか。私たちの大きな建物が、何の役に立つのでしょうか。私たちの知的な語り、何をすることでしょか。それには……。

その日、立ち得るものは、イエス・キリストの血のほかには何もありません。その血によって洗われ、聖霊のバプテスマによって主の義をまとった者だけです。

教会がそれを失う時、それは終わりです。そしてあなたがたには、それが押しつぶされ、なだめすかさされ、言葉で丸め込まれていくのが見えるのです。

聖霊は、私たちの信条、教派、分派の壁、階級意識、そして飾り立てたものによって悲しまされています。そうしたもののすべてが、神の御前では忌むべきものであることを、あなたがたは知っていますか。

それこそ、世が教会に対してしてきたことです。世は実にあらゆる策略を尽くしてきました。

「あなたはこれを行うことができます。」

「こちらのほうがもっと良くなれます。」

「これもできます。あれもできます。」

そうしているうちに、ついには教会がほとんど死んだような状態にまで至ってしまったのです。

私たちには、かつてあったような集会がありません。今日、人々は語っています。ビリー・グラハム、オーラル・ロバーツ兄弟、私自身、私たち皆が、この時代にリバイバルが必要だと語ろうとしています。

しかし、教会が世に縛られている限り、どうしてリバイバルを持つことができるのでしょうか。サムソンが縛られている時に、どうしてそれができるのでしょうか。

秘密は知られてしまい、神は彼の力をそり落とされたのです。もはやそこには……。人々はあるところにまで来てしまいました。これらの孵卵器育ちの説教者たちが、私たちをそこまで連れて来てしまったのです。私たちはあまりにもかたくなになり、正直な人々でさえ、勝利を得るまで祈り抜く昔ながらの聖徒を見てからかうようになりました。

誰かが叫ぶのを聞いたり、異言を語るのを聞いたり、あるいは聖霊の力の何らかの現れを見ると、自分をクリスチャンと呼ぶ人々が、その人たちを笑いのにするのです。

何が問題なのでしょう。

それは……。結局のところ、なされたことはただ一つです。力がそり落とされてしまったのです。

27 それがルターの時代に起こったことです。ルター自身は正しかったのです。しかし、そこに新しい学派が入り込んできました。そして、ルターが語っていた事柄をそり落とし始めたのです。分かりますか。そり落としたのです。

ウェスレーの時代にも同じことが起こりました。神の癒しや、さまざまな奇跡などがあり、彼は聖化を宣べ伝えました。しかし新しい集団が入って来ると、彼らはそれをそり落とし始めたのです。分かりますか。髪の手を見つけたの

仰によって信じさせてくださるのです。なぜなら、

「信仰とは、望んでいる事がらの実体であり、目に見えないものの証拠」だからです。

悪魔はそれを、ただ逆さまにしてしまったのです。そして彼は、それをペンテコステ教会に対しても行っているのです。

私は年ごとに彼らを見ています。彼らは、ほかの教会を倒し、縛ってしまったのとまったく同じ状態へと、ずり落ちて行っているのです。これはまさに真実です。

知識、知識、私たちが求めるのは知恵ばかりです。そして知識を多く得れば得るほど、彼らは、もっと上手に話せる、もっと良い教育を用いることができる、心理学を語るができると思うのです。

しかし、彼らがそうしている時、人々を神の聖なる聖書から引き離しているのです。人々をいのちと信仰から引き離しているのです。

16 さて、少し前にここロサンゼルスで読んだ小さな本のことを思い出します。これは……。決して不敬な意味で言うものではありません。ただ、私の心に残ったのです。そこには、人間的に見てもなかなか筋の通ったことが書かれていました。少しユーモアもありましたが、だいたいこんな話でした。

ある鶏小屋がありました。ある朝、目の輝いた小さな雄鶏が、箱の上に飛び乗りました。そして、その小さなくちばしで箱を四、五回つついて、こう言いました。

「この鶏小屋の皆さん、今朝、私は皆さんに講義をしたいと思います。私はたくさんの知識を得ました。この場所を最善に運営するにはどうすればよいか、よく分かっております。美しい羽を作るために、どうすべきかも全部知っております。」

すると、小さなとさかを垂らした若い雌鶏たちが、コッコと鳴いて言いました。

「まあ、なんてかわいいのかしら。」

そうですね、それを見ると、神学校出の若い説教者たちの幾人かを思い出します。

すると、その雄鶏は続けて言いました。

「美しい羽を伸ばすために、どのようなビタミンを使うべきか、私はよく知っています。そして、ここをもっと住みよい場所にするために、どのような暮らし方をすべきかも知っています。」

ところが、その小さな雄鶏がちょうど話の真ん中にいた時、鶏小屋の外から、羽もあまりない小さな雄鶏が走って来ました。そして言いました。

「ちょっと待ちなさい、坊や。私はたった今、最新のニュースを聞いてきた。鶏肉が一ポンドあたり四セント値上がりしたそう。そして明日、私たちは皆、屠り場へ行くことになる。」

それなら、あなたの知識が何の役に立つというのでしょうか。大切なのは、神の前に正しい者であることなのです。

17 ある時、一羽の小さなカナリアが止まり木にとまって、こう言いました。

「この小さな私たちの教派の中で、私はカナリアの中でも最も賢い者の一羽です。私はあまりにも多くの知識を得たので、人間というものについて全部知っています。彼らは私たちより優れていると言われてはいますが、私はそれについて全部知っているのです。」

ちょうどその時、パデュー大学のある教授が近づいて来て言いました。

「おまえのような取るに足りない小さなものが……」

そして、たいそう難しい言葉を話し始めました。するとその小さなカナリアは目をぱちぱちさせ、じっと見つめ始めました。もちろん、その教授が何を言っているのか分かりませんでした。

教授はその小さなカナリアに向かって話し続けました。さて、その小さなカナリアが見えなかったわけではありません。目はありました。聞こえなかったわけでもありません。耳もありました。

しかし、彼が理解できなかった理由は、彼にはカナリアの頭しかなく、人間のことを理解することができなかったからです。

さて、私は、私たちの神学校の教えや知識の多くも、それとまったく同じだと思うのです。あまりにもカナリアの頭なのです。

けた人々のもとへ行かせるよりも、そのほうがよいのです。教育は学校へ行けば得られます。

しかし教会は、教育プログラムのためにあるのではありません。教会は、聖霊の力と現れのためにあるのです。今夜、教会に必要なのはそれです。その通りです。そうしたものから離れなさい。

しかし、ああ、デリラよ、気がつけば……。サムソンは、最初の一步で立ち止まるべきではありませんでした。デリラが彼に色目を使った時、彼は顔をそむけて、そのまま歩き続けるべきだったのです。

エバはほんの一瞬立ち止まり、それで問題に陥りました。サムソンもほんの一瞬立ち止まり、問題に陥りました。

そして世が教会や個人に何かを差し出す時、立ち止まってはいけません。そのまま進み続けなさい。

今夜、教会に必要なのはそれです。こうした知的で、上品ぶった誇りのために立ち止まらないことです。聖霊のうちに進み続けることです。ただ押し進み、進み続けるのです……。

26 私たちが、

「さて、私たちの教派が一番大きいのです」

と言う時、それは何の関係もありません。

「まあ、市長が私たちの教会に来ているのです。」

それも、やはり何の関係もありません。誰が来ていようと関係ないのです。

大切なのは、キリストが来られるかどうかです。私たちが教会の中においてほしいと願うのは、その方なのです。それが街角の伝道所であろうと、宮殿のような建物であろうと、キリストのおられる所こそ、教会にとっての家であり、人々にとっての家であるべきです。

しかしデリラは、かなり巧みに立ち回らなければなりませんでした。なぜなら、彼女はサムソンを止めなければならなかったからです。彼女は、彼が神の力ある人であり、隠された力を持っていることを知っていました。ですから、彼を止めるために、あらゆるまじないのようなこと、策略を尽くさなければならなかったのです。

「もし私が彼女を上品にし、立派な大きな教会堂を与え、洗練された立派な説教者たちを与えることができれば、間もなく彼女をすっかり縛り上げることができる。」

そして、ほとんどその通りになってしまいました。その通りです。彼はそれをやってのけたのです。

24 ああ、なんということでしょう。イスラエルは、落ち着いて住みついた時に……。彼らが進み続けていた時は、よかったです。動いている間は大丈夫でした。しかし、彼らがパレスチナに着き、そこに落ち着いて住み始めた時、彼らはペリシテ人や異邦の世のように振る舞い始めたのです。彼らは王を欲しがりました。

そして、サウルを自分たちの王として受け入れた時、彼らは神を自分たちの王として拒んだのです。

そして私たちも、聖霊の代わりに、教派の壁や、握手だけの交わりや、形式ばった上品なものを受け入れるなら、その時、私たちは神を自分たちの王として拒んでいるのです。

何が起こったのでしょうか。それはついに彼らをアハブへと導き、完全な後退へと至らせました。そして彼らは、本当の王が来られた時、その方を認めることができませんでした。

それこそ、今日の教会がしてきたことです。教会は、これらすべての哲学や教理や心理学、その他さまざまなものを受け入れてきました。聖霊を受け入れる代わりにです。

そして今、王は教会のただ中におられるのに、彼らはそれを知りません。彼らはその方を拒んだのです。ちょうどあの時、人々がイエスを拒んだのとまったく同じように、今日の教会も主を拒んでいるのです。

なぜでしょうか。

彼らが地上の王を受け入れたからです。

25 あなたがたは、神を知っている人々を教会の牧者として受け入れる代わりに、教育を受けた説教者たちを受け入れているのです。

私は、自分の家族を、たとえABCも知らないような説教者であっても、キリストを知っている人の説教を聞きに行かせたいと思います。どれほど教育を受

私たちは、知識によって神の奥義を理解することはできません。なぜなら、それは聖霊が啓示してくださる時にのみ、聖霊によって明らかにされるものだからです。

今日、あまりにも多くの「カナリアの頭」の説教があります。自分たちがそれについて何を知っているかばかりを語ります。しかし結局のところ、何も知らないことが分かるのです。なぜなら、私たちの小さな有限の思いが、全能の神の無限の御思いを、いったいどうして理解できるのでしょうか。

私は理解できません。どうして私たちは、そこまで自分たちを低いところにまとめ上げてしまうのでしょうか。

人々がこうしたことをし、人々を組織化し、あるテレビ番組を見るために早めに集会を終わらせるようなことをする理由は、私にはただ一つのことを示しているように思えます。

彼らは神を知らないのです。そして、新生の代わりになる何かを置こうとしているのです。彼らが避けて通っているのは、まさにそこなのです。

18 聖書が新生を教えていることは誰もが知っています。そして彼らは握手やその他のすべてを新生に置き換えましたが、それが新生に取って代わることは決してありません。それは経験であり、生まれ変わったものでなければなりません。

どんな出産もめちゃくちやであることは誰もが知っています。赤ちゃんが生まれたとき、それが床の上、殻の山、またはピンク色の装飾が施された病室にある場合、それは混乱します。しかし、それは命をもたらします。それが新生です；それは混乱していますが、それは命をもたらします。それはスタイルでも、着るものでも、信条の宣言でもありません。それは聖霊のバプテスマであり、それが真の信仰教会の秘密です。生まれ変わりました。

ああ、あなたが祭壇から立ち上がって、泣いたり、ブーフーしたり、金切り声を上げたり、よだれを垂らしたりするのは知っていますが、それは命をもたらします。それはあなたからでんぷんを取り除きます。それはあなたをあるべき姿にします。それはあなたから全世界と硬い首を奪います。そして今日、私たちはただ歩いて行ってこう言います。“私はイエスを私の個人的な救い主として受け入れます。” 男性と女性が祭壇に来て、自分がどこにいるのか、誰が周りにいるのかを忘れ、本当に死んで生まれ変わるまで、それが新生に取って代わることは決してありません。徹夜の祈祷会と聖霊の力が再び教会に戻ります。今日私た

ちに必要なのは、古き良き時代の聖パウロのリバイバルであり、聖書の聖霊はその力の中で、しかし説教の単純さの中で説教を返しました。それは復活の力の中にあります。

偉大な使徒パウロは言いました、「私はあなたのところに来ます。あなたの一あなたの信仰が人々の知恵によって築かれるという知恵の言葉ではなく、あなたの信仰が人間の知恵によって築かれるように聖霊の力を宣べ伝えるために来ます。」聖霊。今日、教会にはそれが必要です。そして、他のものを代用して上品ででんぶん質で硬くなると、秘密が失われ、髪が剃られてしまいます。まさにその通りです。

19 ああ、デリラはそのやり方を知っていました。何をすべきか、よく知っていたのです。

先日、先週の土曜日、妻と私は食料品を買いにスーパーへ行くところでした。私はこのことばかりをくどくど言うつもりではありません。私はこの件でひどい評判を持っていることも知っています。しかし、間違っているものは間違っているのです。物事が間違っている時に、どうして黙っていられるでしょうか。

今日の教会の問題は、あまりにも弱々しく、腰抜けのようになってしまったことです。神は腰抜けではありません。神は神なのです。

私たちの小さな町の道を通っていた時、少なくとも二百人ほどの女性とすれ違ったと思いますが、スカートをはいていた人は一人だけでした。残りの人たちは、女性たちが着ている、あの古くからある小さな不道德な服を着ていました。

すると妻が私に言いました。

「ビリー、あの女性たちは、自分が裸同然だということを知らないだけでも言うのですか。もし知らないのなら、正気ではありません。気が狂っているのです。」

その通りです。

私は言いました。

「いいや、あなた。彼女たちはただアメリカ人なのだよ。アメリカの習慣に従っているだけなんだ。」

妻は言いました。

の教会を持たれます。新しく生まれ、満たされ、血によって洗われ、御霊に満たされ、すべての罪定めが去った教会です。

「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む者には、罪定めはありません。」

23 あなたはどのようにしてキリストの内に入るのでしょうか。

一つの御霊によって、私たちは皆、聖霊により一つのからだの中へとバプテスマされたのです。そこに秘密があります。

悪魔はそれをつかんでいます。彼は、どのように入り込み、あなたからそれを奪い取るか、よく知っています。あなたを組織化することによってです。

あなたは言うかもしれません。

「まあ、私たちはあの群れとは違います。私たちには、もっと優れた説教者たちがいます。」

あなたがた、小さな神学校育ちの、ビタミンで育てられた、神学校生まれの雄鶏よ。自分がフライパンへ向かっていることを知らないのですか。いったい何を得意げに鳴いているのですか。分かりますか。

今日あなたがたに必要なのは、昔ながらの良き聖霊のバプテスマです。人々に、キリストにある永遠のいのちを宣べ伝えることです。なぜなら、主は今も、あの時と同じように生きておられるからです。

美しい羽や知性が、何の役に立つでしょうか。そこにいる小さな若い雌鶏たちをきれいに着飾らせたり、そのようなことをしたりして、あなたがたは自分たちがフライパンへ向かっていることに気づいているのでしょうか。

それが何の益になるのでしょうか。あなたがたの知性のすべては、結局どれほどのものになるのでしょうか。

今日、私たちに必要なのは、そのようなものから離れて、聖霊へ戻ることです。神の力へ戻ることです。昔ながらの集会へ戻ることです。徹夜の祈禱会へ戻り、祈り、自分に死ぬまでとどまり続けることです。それこそ、私たちに必要なものなのです。

デリラ、すなわち世は、ペンテコステ教会の秘密を見つけたのです。

私たちは同じ祝福を持っています。同じものを持っているのです。もし神が人々を同じ状態にすることがおできになるなら、その同じものは、いつでも働くのです。

22 それは環境です。あなたの環境なのです。

卵を取り、それを孵卵器の中に入れることができます。そうすれば、同じようにひよこがかえります。なぜでしょうか。それは、卵をかえらせるのは環境だからです。まさにその通りです。

もしバプテストであれ、長老派であれ、カトリックであれ、ルター派であれ、ただそのいのちの胚芽、すなわち神の御言葉を心の中に受け入れ、正しい環境の中に置くなら……。彼らは、教会が何と何を気にしません。世が何と何を気にしません。ただ、そのものがいのちを得ることを望むのです。

神は、ペンテコステの日になされたのと同じように、その人の上に聖霊を注ぎ出されます。それは確かです。なぜなら、神は神であられるからです。

しかし、私たちが自分たちを組織化し、互いから離れて縮こまり、その力を否定したり、そのようなことをしている限り、それは決してできません。私たちは決してそれを行うことはできないのです。

だからこそ、私はこのクリスチャン実業家会が好きなのです。ここは、まだ御霊のある場所の一つです。さて、私は……。彼らは自由です。皆が一つに集まり、いわば互いのガムを噛み合うような親しさがあります。彼らは本当に交わりを持っています。彼らは本当に互いを愛し、神を愛し、この世のものや流行を気にしません。

今日、私たちに必要なのは、一つに集まることです。離れなさい。悪魔に、聖霊の力をあなたから奪わせてはなりません。それこそ私たちに必要なものです。それが教会のいのちなのです。

それを取り去ってしまえば、あなたに残るのは社交団体です。教会から御霊を取り去ってしまえば、それは社交団体になります。私たちは社交団体を望んでいません。それは社交団体を望む人々のためのものです。

私たちが望むのは、聖霊に満たされ、キリストがその王であられる教会です。

私は今、信仰の熱を感じています。そうです。なぜなら……。神は必ず一つ

「でも見てください。あの女性たちが、自分のしていることを知らないとも言うのですか。」

私は言いました。

「いいや、彼女たちは分かっているのだ。ただアメリカの霊を受けているのだよ。」

そして私は言いました。

「私がフィンランドにいた時、彼らが私をある場所へ連れて行きました……。もしここにフィンランドの方がおられるなら、私の発音が正しくないかもしれませんが、“サウナ”です。入浴の場所、フィンランド式の風呂です。私がある場所に着いた時、聖霊が私に、そこへ入ってはいけないと告げられました。そして後になって分かったのですが、そこには男性の体を洗う女性たちがいたのです。」

それで私はムニオン博士に言いました。

「あなたは、それが正しいと思いますか。」

彼は言いました。

「あなたがたアメリカの医者が女性を診察台に横たえ、服を脱がせて診察するのが正しいのと同じくらいには、正しいでしょう。」

ですから、分かりますね。

「ガチョウにかけるソースは、雄ガチョウにもかけるソース」です。

つまり、鍋がやかんを黒いと言うことはできないのです。

そしてフランスへ行くと、そこでは女性も男性も同じトイレを使います。アフリカの奥地、暗いジャングルの中へ行くと、彼らはまったく服を着ていません。

しかし、ここに大事なことがあります。それは、その国の習慣なのです。

妻は言いました。

「それなら、私たちはアメリカ人ではないのですか。」

私は言いました。

「いいや、私たちは別の国から来た者なのです。私たちはここでは旅人で

あり、寄留者です。来たるべき都を求めているのです。」

私は言いました。

「なぜなら、私たちは上から生まれたからです。私たちの霊は、別の国、すなわち天から来ているのです。そこでは聖さと神と義が治め、支配しておられます。そして私たちは、自分たちが旅人であり寄留者であることを告白しています。私たちは、神が建て主また造り主であられる、来たるべき都を求めているのです。」

20 私たちは、この世のものを求めているわけではありません。そして神の御霊が人の中に入って来られる時、その人は変えられます。それがあなたを動かすのです。あなたの内にあるいのちが、あなたを動かすのです。

今日の教会の問題は、あまりにも世的になってしまったことです。私たちに必要なのは、人の内に、心の内にある聖霊です。それには新生が必要です。その人を変え、男であれ女であれ、新しい造られた者とするのです。

アフリカの最も暗い地域で、私は、生まれて来た時そのままのように、全く裸で立っている女性たちを見ました。しかし聖霊が彼女たちの上に臨まれた時、彼女たちは自分の裸を隠すために腕を組み、衣服を見つけるまで立ち去って行きました。

それなのに、私たちは自分たちを文明人と呼び、年ごとに服を少しずつ脱いでいながら、なお聖霊を持っていると主張しているのです。聖霊は、ある人には一つの方法で働き、別の人には別の方法で働く、ということはなさいません。

しかし、これだけは言わせてください。それがアメリカであろうと、フィンランドであろうと、フランスであろうと、どこであろうと、女であれ男であれ、神の御国から生まれた者は、新しい造られた者となり、この世の事柄をやめるのです。それらはその人にとって死んだものとなります。なぜなら、その人自身が死に、そのいのちはキリストを通して神の内に隠され、聖霊によって封印されているからです。

今日、私たちに必要なのはリバイバルです。揺り動かすです。昔ながらのペンテコステのリバイバルです。

神の御霊が私たちから悲しませられて離れて行ってしまおうような、この大きな霊的な遺体安置所のような場所に住むよりも、街角でタンバリンを打ち鳴ら

しているほうが、私たちはずっと良い状態にあるでしょう。

悪魔は、奪い、取り去るために来ます。彼が知っているのは、それだけなのです。

21 王たち……イスラエルが最初に後退し始めた時、何がそれを起こしたのでしょうか。彼らがエジプトから出て来た時、彼らは天の王に導かれていました。神が彼らの王でした。それが彼らの力の秘密でした。それが彼らの成功の秘密でした。なぜなら、神が彼らの王であられたからです。

しかし、彼らが落ち着いて定住した後、何をしたのでしょうか。それは型としてのペンテコステ教会でした。

ずっと昔、神が王であられた時、私たちが集会に来て、神の力が下ると、私たちは叫び、飛び上がり、あちこち動き回りました。私たちは恥じることはありませんでした。

しかし私たちは、メソジストがどのようにしているか、バプテストがどのようにしているか、長老派がどのようにしているかを見始めたのです。私たちはメソジストでも、バプテストでも、長老派でもありません。私たちはペンテコステです。神の御霊によって生まれた者です。そのようなものに、決して私たちが縛らせてはなりません。

しかし世は、あなたがたの秘密がどこにあるのかを見つけ始めています。何がその力を生み出しているのか。この者たちは何をしているのか。彼らは見つけ出し、そしてこう言おうとしているのです。

「奇跡の日々は過ぎ去った。神の癒しなどというものは存在しない。この叫び声や、主をほめたたえること、またこれらのしるしや不思議は正しくない。」

それは、彼らが神を知らないからです。彼らは一度も新しく生まれたことがないのです。神の聖書は、神が昨日も今日も、いつまでも変わることはない方であり、その力も同じであると語っています。

彼らは、それについて私に語るには遅すぎました。私はそれを経験したのです。そして自分が何を語っているのかを知っています。

神は今もなお神であり、いつまでも神であられます。そして今夜、この建物の中においても、ペンテコステの日にそうであられたのと同じだけ神であられます。